

平成 30 年度第 2 回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

平成 30 年 7 月 3 日(火)10:00～12:02

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室 (広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号)

3 出席者

懇談会構成員

団体名・役職	氏名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
広島市立大学広島平和研究所 副所長	水本 和実
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者 (平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事)	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

(計 9 名、欠席なし)

事務局

観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査 (計 3 名)

4 議題

(1) ルート周遊体験調査の実施状況について

- ① 広島市立大学『平和インターンシップ』受講生によるルート周遊の実施結果
- ② 自転車ルートに関するヒアリング結果

(2) 今後の事業展開について

- ① 懇談会で提起された意見や課題への対応
- ② スマートフォン向けコンテンツ制作状況
- ③ 事業スケジュール
- ④ 外国人等によるルート検証の実施 (案)

(3) その他意見交換

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

2 名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会 (平成 30 年度第 2 回)

8 発言の要旨

《事務局から資料に基づき説明》

(原田座長) ご意見をいただく前に、補足説明を加えたい。昨年度は数多くの提言をいただき、2月末に市長に報告した。市長からも、とりまとめられた意見については事業化に向けて具体的な検討を進めていきたいと、前向きな発言をいただき、心強く思っている。既に今年度に入ってから3ヶ月が経過しているが、来年度の予算編成は10月頃から始まる。それまでの間に、来年度以降の事業化に向けて各部局において鋭意検討してもらっている。今回の追加分とあわせると120項目を超えるが、それをどのように実現していくのか。10月の懇談会に向け、努力を重ねていきたい。

5月22日に事務局とめいふる〜ぷを運行している中国JRバスを訪問し、意見交換を行った。めいふる〜ぷは昨年は50万人が利用しているが、さらに増やすことを考えておられる。バスは10分間隔で出ているが、広島駅で相当積み残しが出るケースがある。車が小さく定員が少なく、外国人は大きな荷物を持って乗車し、その分、乗車できる人数が少なくなっている。中国JRバスとしては、大型のバスを使いたい、比治山の登山道や路上駐車が多い並木通りを通ると、大型化にも限界があり、そこが悩みのようだ。また、他のバス会社との調整も必要であるが、自社の事業が広島への来訪者のために役立っていると行政が認識してくれるなら、精一杯努力したい気持ちがある。平和公園のバス停は歩道が切り込みされ、そこを歩行者や自転車を通り乗降客もたむろしている。中国JRバスには市の各セクションから話が行っているようだが、窓口を一つにまとめるのがよいのではないかと。二葉の里歴史の散歩道は、東区役所が整備しているが、バスが左折しにくく、散歩道の1/3くらいしか通行していない。饒津神社からすぐのところから入れるとよいが、角切りするだけでは難しいようだ。バスを大型化するととなおさらであろう。行政も力を出していく必要があるのではないかと。

白島の通信病院の旧外来棟について、市が寄付を受けて、管理することになった。市が直接関与して、多くの人に公開していくことは、とても心強いことだと思う。また、現代美術館をリニューアルすることになり、この施設を平和発信機能と合わせてをより強化したい、多くの市民に身近に感じられるような美術館の管理運営をしてはどうかと提案してきた。

金沢大学の准教授が、ダークツーリズムという考え方について語っている。ダークツーリズムのあり方は、ピースツーリズムに関わってくることでもある。北海道の網走監獄の展示が非常に優れているようだ。何度か訪れているが、あそこはジオラマの世界で、囚人達が網走監獄において、どのような状態で日常生活を過ごしていたかについて、心に迫る展示がなされている。一方、広島の平和記念資料館と沖縄のひめゆり平和祈念資料館は学んでくださいという面が強く出てしまっている、ダークツーリズムは「観光」が大事なポイントで、遊びに行ってみたら深いことに気付くというのが望ましいと指摘されている。このような視点も参考にして進めていきたい。

◆ルート周遊体験調査の実施状況について

(原田座長) 水本委員のご努力の結果、このようにとりまとめることができた。参加者の多くは18歳、19歳の学生であり、説明の内容によって受け止め方が変わる。もっと広島のことをしっかり知ってほしいと思う。映像文化ライブラリーをルートに入れない方がよいという意見もある。私は映像文化ライブラリーの開設に関わってきたが、このようなものを広島に作るにあたっては、平和を希求する映像がたくさんあり、それらを広島に残したいということと、広島

で映像文化により平和を発信する機能を持ったものにしたい、欲を言えば、全国的な位置づけができるものにしたいという考えがあり、当時、日本映画制作者連盟会長の岡田さんが、荒木市長と懇意だったこともあり、日本映画の集大成となるものを広島に作ろうということになった。目立たない存在であるが、東京の国立近代美術館のフィルムライブラリーに次いで、大きな拠点となっている。そこをしっかりと PR し周知できていないことが、映像文化ライブラリーをルートから削除した方がよいという意見につながったのではないかと。

(前田委員) その他感想・気づきにある、「各人にあったコースが必要」、「コースにこだわらず、エリアで散策できるような表示も必要」という意見に同感である。一つのコースや一つの場所で、色々なことを織り交ぜた情報提供ができることよいのではないかと。例えば、平和記念公園の原爆の子の像の前の道路はゆるやかなカーブになっているが、ここは元は旧西国街道のかぎ型に曲がる道だったのを、車が通りやすいようならかなカーブにしているのであり、歴史を示している。同じ箇所について、市民生活の復興だけでなく、被爆の痕跡があるなど、色々なことを情報提供できるとよいのではないかと。それによって、文化に着目したコースであっても、被爆の痕跡について同時に知ることができ、文化・文学のことも知ることができるといえるのではないかと。これは質問であるがコンテンツのカテゴリーから選択する画面で、今いる地点から近い別のカテゴリーの場所も検索できるのか。場所を巡っていて、違うことも知りたくなったとき、すぐに行くことができるかどうかと思ったのでお尋ねする。

(渡部委員) 市立大学の学生には、巡っていただいてよいご提案をいただいた。若い方にとっては、動画が必要なんだということを感じた。動画に関しては、首都大学の渡邊先生が白黒写真に色を付けておられるので、そういったものも活用させていただくことできれば、若い方に理解していただける情報提供ができるのではないかと。本川小学校平和資料館については、何とか今年から着手していただいて、市民や観光客にとって行きやすく且つ見学しやすい、また学校にとっても負担が減るようなことを具体的に考えていただけたらよい。「県外の友人と行こうとは思わない。平和学習は資料館で充分であり、サイクリングなど他の目的を設けるべき」という意見があった。今の学生さんの率直な意見として心に留め、でも行ってみると深いものに出会えて、自分の心に残るものになるという経験が要るのではないかと。今回は学生さんは受け身であったが、今度は県外の人に自分がガイドとして歩くとしたらどうだろうかという視点で、もう1回学生さんの協力を得られると、また違った発見があるのではないかと。

イサム・ノグチの平和大橋を含め、本当に大切な施設やそれができた物語が、抜け落ちていっていると感じた。平和大橋が削除した方がよい施設に挙げられているが、イサム・ノグチの物語を知っていれば、やはり平和大橋への格別な思いが湧いてくる。このような学生さんの意見は、これまで私たち大人が何を伝えてきたのかという反省点ではないかと。

実際に観光ボランティアの方がフル回転でガイドの要請を受けているが、観光ボランティアとして登録されている皆様の視点でこれを歩いていただくことができればと思う。また、定年退職された方が、平和に関わることでもっともやりたいことはガイドだそうである。何人もの方から実際に聞いた。従来の観光ボランティアとは違った、ピースツーリズムのガイドの方を養成していくということは、これからヒロシマの物語等を浸透させていくのにとってもよいのではないかと。

(古谷委員) 立ち寄り場所から削除した方がよい施設として、映像文化ライブラリーが挙げられ

ていることについて、私も実際に歩いた時には限られた時間の中でわざわざ時間をとる必要があるだろうかと思っただが、先ほど原田座長がおっしゃったような作られた時のご尽力や考えを聞くと、確かにそうだと思う。例えば、「この世界の片隅に」というアニメが好評を博しているが、そのブームが去ったらこれはどこに行ってしまうのだろうと思う。広島のことを伝える作品には、新藤兼人さんの映画等もあり、これらを系統立てて映像文化ライブラリーにおいてきちんと整理し、絶えず情報発信していくということをすれば、削除した方がよいという考えはおかしいと思えるのではないか。

本川小学校と袋町小学校の他に、幟町小学校に新しい資料館ができた。まだ実際には行ってないが、佐々木禎子さんゆかりの遺品などが整えられているというニュースを見た。本川小学校や袋町小学校については、特別に広島のことに関心を持たれている外国人をご案内した時、本当によい展示だと褒めていただいたので、本川小学校平和資料館の開館時間を整え、土曜日・日曜日も公開できるようにしていただけたらよいと思う。

(水本委員) 回るそれぞれのポイントが大事であることを我々はよく知っているのだが、それをどのように回る人に伝えるか。事前に学習してもらうのか、現場でスマートフォンにより情報を伝えるのか、ガイドにより案内するのか、案内板を設置するのか。どうすべきなのかが次の課題だろうと思う。ガイドだけでは全ての観光客に対応できないし、そうかといって、事前学習をしてくださいというのも難しいかもしれない。何の予備知識もない人が行って、スマートフォンだけで勉強できるのか。大事な情報をどのようにしたら伝えることができるだろうか。

(平尾委員) 学生さん達の意見は、私達の視点とはまた違って刺激的なものも多く、勉強になると思った。「興味がある人でないとだめかもしれない」との意見は、原田座長が紹介されたダークツーリズムの話と繋がる。学びの要素が強いが故に、それを学びに来た人にはよいけれど、そうではない人を取り込む余地はあるのか。ピースツーリズムに限らず、広島の平和のあり方、発信のあり方そのものに関わることなので、ここだけで議論するのは時間が足りないと思う。ピースツーリズムの基本スタンスとして、ターゲットを一体誰なのかということをしっかり設定しないと、ぶれてしまう。興味ある人に見てもらえればよいのか、そうではなく裾野を広げて、食に興味があった人、スポーツに興味があった人、オリンピックで広島に練習に来た人などにも見ってもらうのかなど、ターゲットの設定は大事である。今回のアンケートは、ツアーに参加した前提で、ここがよかった、ここは工夫の余地があるという回答になっているが、自分がこのツアーに行くかどうかという設問や、友人を誘うかどうかという「そもそも」の設問があってもよいのではないか。このようなものは、1回で完成ということにはならないと思う。スマートフォンが頻繁にアップデートを繰り返すように、状況の変化や、いただく意見、フィードバックを取り込みながらツアーのコンテンツやコースが変わっていく余地を残し続けることが大事ではないか。この懇談会も永続的にというのは難しいと思うが、ツーリズムを考え続けるという意味で継続した方がよいと思う。我々は、コンテンツを作っているというよりは、ピースツーリズムのプラットフォームを作り続けている、この上にどのようなものを乗せ、どのような意見を取り込んで形にしていくことが大事かという「場」を作っているんだということに改めて感じた。

(辻委員) スマートフォン向けコンテンツはすばらしいと思うが、学生さんが指摘されたように、私達も経験したように、現地での表示板が足りない。バーチャルで見るとは事前にできる。

何のために広島に来るのかということ、目の前で見て感じるためである。バーチャルでなく、現地に簡単な説明板があり、もう一步踏み込む際にはスマートフォンの情報があるというのがよいと思う。広島大学旧理学部1号館には説明板が無かったが、そういうものをきちんと整備していくことが大事ではないか。「広がって歩いたり、狭い道で立ち止まるのはやめた方がよい」という意見があったが、地域との共生、住民との共生についての配慮が必要である。本川小学校と袋町小学校はどうしても外せないの、広く見ていただくための施策を本気で考えていかないといけない時期に来ているのではないか。

(原田座長) 被爆遺構に関する懇談会設置の議論が始まったと聞いている。これは、ツーリズムの中の大きなポイントになると思う。

(津村委員) 被爆遺構について、市民の皆さん、被爆者の方々、メディアの方々の関心が非常に高いことをひしひしと感じている。期待に応えられるものができたらよいと思っているが、具体的な検討は今から始まる場所である。どのようなものができるのか、正直に言って、まだ分からない。掘ってみないと分からない。文化庁によれば、掘った瞬間に劣化が始まるということであり、それをどのように保存し、どう展示・活用するかについては、科学的なことも含め色々な要素があり、大変な作業になる。保存を促進する会からのご要望もあり、また文化庁からも、色々な分野の専門家の意見を聞きながら、総合的に広島としてどのようなものを作りたいかということをもとめた方がよいという助言があった。考古学や、保存科学など色々な分野の専門家、有識者の方、被爆者の代表の方などにメンバーになっていただいて検討する懇談会を今月中に立ち上げたいと思っている。懇談会の中でご意見をいただきながら、2020年の被爆75周年の年にオープンということを目指している。保存を促進する会からは8月6日までというのを目標にしてほしいとのご要望をいただいているが、何が出てくるか掘ってみないと分からない、本当に可能なのか分からないという状況にあり、何月何日までという確約は申し訳ないができない。ただ、できるだけ早くしたいとは我々も思っている。

通信病院の旧外来棟は、貴重な被爆建物である。市内中心部において被爆者の治療に供された医療施設は日赤病院とこの通信病院の2つしか残っていない。日赤病院は窓枠のモニュメントのみとなっているが、こちらは建物が残っているということで非常に貴重なものである。日本郵政において、数年前に耐震工事をされたのに加え、寄付するとなると病院と分けないといけないため、病院の方から入るようになっていたのを、電車通り側の塀を取り払って出入り口をつくり、階段とスロープを付けていただいた。市として、被爆建物を保存継承し、市民の方に見ていただくために、寄付をお受けするべきと判断した。資料室があり、被爆当時の治療に関する資料や写真が展示されており、常時開館ではなく、予約をいただいたら開けて案内をするということまでされていた。これを、市が寄付を受けた後も引き継いでやっていく。昨年度は、修学旅行生等が約1,000人訪れているということである。今後もっと来ていただける方法を考えていきたい。ぜひ、ピースツーリズムのルートに加え、一緒にやっていきたい。

(原田座長) 被爆遺構の展示について、色々な意見があるが、目標はやはり8月6日だと思う。資料館の展示一つ一つと比較した時に、地下の遺構は圧倒的に訴える力が強い。ぜひ、精一杯努力していただきたいと思う。

(阪谷委員) 今の学生の皆さんの意識を知る良い機会となった。水本委員には感謝申し上げる。学生さんのご意見を聞き、平和教育にどのように取り組んでいかなければならないか、改めて

考える必要があると思った。また、市の施設について、設置の経緯も含めて、なぜこの施設がつくられたのかという意図を分かるように伝えていく努力を、行政としてしなければならないと思った。ピースツーリズムのスマートフォン向けコンテンツに、ストーリーという項目を設けているが、これはその施設について誰がどういう目的でつくったかなどをきちんとお示しすることでより理解を深めていただくものである。平尾委員から話しのあったピースツーリズムのターゲットについては、2月28日に市長に報告をいただいた時、市長から、「平和に触れられるような文化を営むなかで、平和について思っている人はより深く、思っていない人はそれをきっかけに考えられるようにする。そのきっかけにピースツーリズムを活用する」といった主旨の発言があった。意識が深い方とそうでもない方がいらっしゃるが、ピースツーリズムが考えるきっかけづくりになることを念頭に置きながら検討していきたい。辻委員のバーチャルだけでなく説明板が必要というご指摘はそのとおりで思っており、今事務局において各施設を1件1件回って説明板があるかないか記録をとっている。説明板がある箇所についても、その内容でよいか、写真があった方がよいか、汚くなって読めないものがないかなど検証し、所管課に改善の検討の依頼をしていくということ、7月に関係部局を回って説明する際に行きたい。本川小学校平和資料館について、7月1日付けの中国新聞に「観光周遊に活用期待」という記事が掲載された。ピースツーリズム推進懇談会の意見を踏まえた記事でありがたかったが、修正がある。「昨年6月から平和や観光の関係者たちが議論を重ねる懇談会は、両校（袋町小と本川小）の資料館を組み込んだルートを設定。本川小の資料館に対しては、「市が管理、運営するべきだ」との指摘も出た。これらの意見を踏まえ、市観光政策部は人員の配置や管理体制などの検討を進めている。」と書かれているが、観光政策部では、教育委員会の施設の人員の配置や管理体制の検討は権限外なのでできない。ただ、委員の皆さんが言われたように、本川小学校平和資料館を土曜日・日曜日にも皆さんが見られたい時に、袋町小学校と同様な形で見るができるということとはとても大事だと考えており、教育委員会に行って管理・運営について見直しを検討していただけないかということ、私どもの方から伝えていきたいと考えている。

◆今後の事業展開について

(渡部委員) 今、阪谷委員が言われたことが今後の事業展開にあたって最も気になるところで、本庁は基本的に縦割りで、それぞれの所管課があると思うので、ここは変えた方がよい、このようにすればよいという話を、ここからそれぞれの所管課へ届けなければいけないが、届けるだけでなく、所管課の皆さんにも賛同していただき、一緒によいものを作り上げていただいたり、最も大変な予算措置もしていただかなければならない。その際に心配なのは、観光政策部がどれだけ他の部局の皆さんと協働できるか。「ピースツーリズム」なので、平和推進課と一緒に行ってもらわないとできないのではないかと。経済観光の部局だけで教育委員会を含め他の部局に話しに行っても、先方が受けるインパクトは少し不足するのではないかと。平和と観光が一緒になって各部局を回っていただき、なおかつ、こちらが一方的にお願いするのではなく、現場の皆さんの方がもっとよい提案をされるかもしれないので、各部局の皆さんのご意見も聞きながら、丁寧に周っていただくことができれば、本当によい形になるのではないかと。

(古谷委員) スマートフォン向けコンテンツの説明を聞き、圧倒された。10月にきちんと動きだ

した時には、通訳ガイド協会の 220 名の会員に、メーリングリストによって、このようなものができたから勉強し、英語版も読んで、これを超える内容を語れるようにするよう連絡したい。大事なことだが、これができた暁には、これができたという情報をどこにどのように発信しようとしているのか。外国人旅行者の滞在時間を伸ばすには、夜神楽がよいということで、県観光課が動いてくださって実施しているが、集客に苦勞している。アンケートにおいて、これをもっと広く知っていただくにはどのようにするのが有効かを聞いたら、トリップアドバイザーをはじめ、ヨーロッパの旅行雑誌など色々な情報をいただいた。フランスには日本のツアーに関心がある人向けのウェブサイトもあるそうである。私がアンケートの翻訳をしているので、これらの情報もお渡ししたい。ぜひ、しっかり拡散して、広島をもっと多くの方が訪れる地にしていこう。

(平尾委員) 懇談会で提起された意見や提案への対応について、「私のピースツーリズムコース」という形で市民が自ら提案する形もあってよいのではないかという意見もあった。私も、これで完成ということではなく、継続的に市民が関わっていく余地をつくっていくのがよいと思う。このようなものができるほど、なおさら、人によるガイドが大事になってくるのではないか。これをきっかけに現場に行った際に、人と関わるのが双方向のコミュニケーションを生み、さらに理解を深める。通訳ガイドの皆さんもそうだが、市民がどう関わっていくことができるかということは今後検討することは、市民団体の一つとして大事だと考えている。スマートフォン向けコンテンツは、すごく良いサイトができてきていると思うが、現在地は表示されるようになるということではいいか。他の意図を持って広島を訪れた方がこれに参加する足がかりにするためにも、せっかくグーグルマップを使うのであれば、ピースツーリズムのルートの中に、飲食店というタグがあって押すとそれが出てきたり、アミューズメントやエンターテイメントや文化などのタグもあるなど、プラットフォーム同士の相互乗り入れができると、別の観光理由で来たけどこちらにも乗り入れてみようということも起きるのではないか。事業スケジュールについては、ルート提案系のサイトは、県がつくったり、市がつくったりと、広島にも山ほどあって、ほとんど埋もれる。どうすれば埋もれないかを考えるうえでも、既に市が実施している P2Walker など、既存サイト、既存マップの良いところだけでなく、伝わらなかった理由、届けるのが難しかった理由を把握するなど、これまでの実施事例から、どうすれば埋もれずにちゃんと届くかということを考えないといけないと思う。対内的な市民に向けての広報と、対外的な、ターゲットとなる利用者に向けての広報とは分けないといけない。市民と市政への掲載は対内的な広報である。さきほどトリップアドバイザーの話があったが、どこにいる人にどう届けるのかということは、かなり戦略的にやっていかないと届かない。良いことをやっているけど、誰も知らないということが、すぐ起きてしまう。外国人等によるルート検証の実施については、検証する人たちが既に広島に関わっている人たちでよいのか。基本的には、初めて広島に来た人たちにより検証しないといけないのではないか。予算をつけてでも、初めて広島にくる人を対象とした調査方法としてもよいのではないか。

(辻委員) 自転車ルートについてのヒアリング結果に書かれているように、私も昨日石飛さんにお会いして詳しく話を聞いたが、自転車で周遊するにはガイドは必須だということだ。安全の確保もあるし、説明をするということが大切なので、例えば石飛さん実施している sokoiko! のツアーを使って回っていただくというような形に修正してもよいのではないか。ルート検証

を外国人等により検証することについては、各ルートの英語訳を完了してからルート検証する
とあるが、留学生からせっかくいただいた意見をどう反映していくのか。本来なら、英訳をす
る前にルート検証をして、それに基づき立ち寄り場所の追加などをしたうえで、英訳をしな
いと、せっかくの意見を吸収されないまま、事務局の思いで進んでしまうことにならないか。皆
さんの意見をうまく吸収し、必要でないところは排除し、必要などころをもう一度練って
いただいて、進めていただきたいと思います。

(津村委員) コンテンツについて外国人による検証が要ると思うが、これは外国人によるルート
検証の中でコンテンツについてもチェックされるということだろう。辻委員が言われたど
こまで反映できるかということについては、一旦翻訳したのを見てもらった方が意見を
言いやすいと思う。二度手間になる可能性は覚悟されたうえで実施することになる
と思うが、ぜひそれはやっていただきたい。他部局への要請については、平和推進課
として観光政策部と調整しながら、全部を一緒に出来るか分からないが協議をして、
できるだけ二人三脚でやっていきたいと思う。あと細かい点だが、ルートマップにお
いて、広島通信病院の表記に“旧外来棟”を加えてほしい。また、**mint** (自転車ツア
ー実施事業者) が赤十字病院の被爆窓枠のモニュメントを案内されているとあるが、
ここも平和に関連する場所の一覧に追加してはどうか。

(事務局) 前田委員からいただいたルートを越えた移動ができるかということについては、
アンケートにおいても、参加される方のニーズにあった情報提供が必要だという意見
があった。深く知りたい方、もう少し軽く試してみたい方など色々なニーズを持って
参加される方がいると思うので、それぞれのニーズにあうよう、特定のルートをきち
んとまわらないと対応できないようなものではなく、近くにある施設を回って
みたい方には柔軟にそれらを回っていただけるような情報提供、近くにあるもの
についてもルートを越えて移動できるような仕組は考えていきたい。**mint** に
実際に協力していただければどうか、市民の皆さんにどう一緒に取り組んで
いただくかといった市民の皆さんとの協働については、例えば、サイトの中で
mint の活動を紹介させていただいて、**mint** にもサイトを利用していただくという
形も、まだ **mint** ときちんと話をしているわけではないが、考えられると思う。また、
ガイドの方でサイトの中で発信することを了解していただける方があれば、
ピースツーリズムのサイトの中で発信していくなど、市民の皆さんと一緒に
ピースツーリズムを作り上げていくような形に中身をブラッシュアップして
いきたいと考えている。情報発信について、ご指摘いただいた、せっかくよい
ものを作ったのに誰も知らないということは、確かに行政の事業でよくある
ケースだと思う。今回のサイトの主なターゲットは外国人と修学旅行生であり、
それらの皆さんにしっかり届く方法をしっかり考えていかないといけない。
修学旅行生向けのマップを用意しているが、その中にピースツーリズムの
ルートを追加したり、外国人については、先ほど古谷委員からお話のあった
トリップアドバイザーなど発信の出口を教えてくださいたい。市役所の
持っているリソースも活用し、平和推進課とも連携しながら可能な範囲で
関心のある方のお手元に届くような取組を進めていきたい。

(阪谷委員) 渡部委員からの平和推進課と一緒に取り組むとよいというご指摘
については、この事業は観光政策部が主管課なので、まずは観光政策部で
きちんと関係部局に協力を求めていく。その中で、これは平和推進課と
一緒の方がより効果的に関係部局の検討が進む、協力が引き出せる
ということがあれば、先ほど津村委員から心強いお言葉をいただいたので、
一緒になって

やっていきたい。古谷委員の通訳ガイドの話について、私は人間と人間の触れ合い以上のものはないと思っている。スマートフォンは補助具として考えており、究極は、スマートフォンに書いてある中身を市民一人一人が来られた方に説明できるのが理想であり、通訳ガイド協会におかれては多言語でそれを行っていただくのが理想である。人間と人間が触れ合い話し合うことができる環境を大事にすることがピースツーリズムにおいて必要だと思う。スマートフォン向けコンテンツについて、制作している中身がマーケットインの発想ではない、つまり、使われる方々の考えを踏まえて作っているのではなく、我々が一方的に作って使っていただくという形になっており、それは本来の姿ではないと思っている。しかし、利用者の考えを想像しながら作り、それを動かしながら、利用者の意見をお伺いして修正していくということをやりたい。辻委員から留学生等の意見を伺ったあとで作ってはどうかとの話もあったが、走りながら修正を加えて中身を変えていきたい。自転車については、mint に関する新聞記事を見て、これはピースツーリズムに関わるかもしれないと思い、事務局に取材してもらった。このようなピースツーリズムに関心を持っていただけるのではないかと、連携することができるのではないかとこの方を増やしていく、そして横につないでいくということが重要だと思っている。ピースツーリズムは市役所が運営するのではなく、そういう思いがある方が集まって運営する、そして自走できるというのが究極の理想だと思っている。そのためにも、引き続き、mint や通訳ガイド協会などの方々と連携しながらやっていくというスタイルは貫いていきたいと思っている。110 数項目の懇談会の意見・提案について、各局からこのようなことを考えているということを出してもらっており、今私が見ている。これを7月から、委員の皆さんの意見・提案を真正面から受けているか、答えが違っているということはないかということも含めて、各局と話をしていく。今もらっている各局の意見を見ていると、否定的な意見はそんなに無い。前向きに取り組むということが書かれており、例えば、自転車の走行環境については、ピースツーリズム推進懇談会から提示されたモデルルートを参考にしながら環境整備をやっていきたいと書かれているし、比治山の展望台からの眺望が樹木で遮られているということについては、昨年度に伐採の実施計画を立てており、今年度は第一期としてムーアの広場や富士見台の展望台、陸軍墓地での眺望確保のための伐採・せん定をするとの答えが返ってきている。10月までにきちんと整理し、今年度できることはやり、来年度以降予算が必要なことはきちんと予算を確保してもらおうようお願いをし、主体的にやっていただくということに取り組んでいければと思っている。

(原田座長) 区役所では職員達が大変な努力をして税金を徴収してくる。このような税金を投入した事業を実施しているということを充分理解していない。最小の経費で最大の効果をあげることを常日頃から肝に銘じて職員とともに努力してきた。税金を財源としているだから、第一義的には市民に還元できる行政をしないといけない。一方、広島という街の性格からすれば、国内外に向かって色々な平和関係の情報を発信しないといけない。一般的に役所の考え方からすると、新たな事業展開をしようとする、予算がない、人がいない、だからできないという答えが返ってくる。そうではなく、予算があろうとなかろうと、どのようにしたらその事業を具体的に、効果的に実施できるかということを前提に考えて欲しい。時間をかけて皆さんから提言していただいたのだから、具体的な形にして次につなげたい。次の懇談会では相当部分が目に見える形で報告できるよう努力していきたい。

◆その他意見交換

(原田座長) ルートを回った市立大学の学生からは、距離が長い、立ち寄り場所が散らばっているという意見があったが、東日本大震災の被災地を回ると、広島はいいですねと言われる。広島は、中心部の交通の利便性が良いところにまとまっていて、徒歩でも回ることができる。また、日赤病院のモニュメントの話も出たが、これは広島市の被爆建造物をどのようにして残していくかという制度を作った時の最初の案件であり、私も関わった。これについても、なぜ壊すのか、もう少し保存できないのかと色々な議論があつて、あのような形になったものである。モニュメントでしかないという人もいるが、東日本大震災の被災地の人から見ると、すごく訴える力があるとよく言われる。石巻からの来訪者からは、モニュメントを補修しないと、劣化して錆が進んでしまうとも言われている。行政の施設ではないが、そういうことにも目配りしながら保存するという体制も必要ではないか。通信病院の旧外来棟付近には、栗原貞子さんの「生ましめんかな」の詩碑がある。これも旧外来棟と一緒に伝えることになれば訴える力はより強くなると思う。

(渡部委員) その場に人がいるということが大事だと思う。それをどう作っていくか。あと、今後の課題だと思うが、ピースツーリズムというものを、アジアの方にどう紹介していけばよいか、考えていきたい。

(平尾委員) 阪谷委員の言われた走りながら考えるということに共感している。広島のピースツーリズムというものは、皆で育てていくものでありたい。そういう意味でも、厳しいものも含めたフィードバックをP D C Aの中でどんどん取り込んでいって、市民も参加しながら、よい形のを皆で作っていく。行政に任せるのではなく、市民団体等の活動も含めて、一緒に大きくしていったらよいのではないか。

(辻委員) 訪日外国人客は 3,000 万人来ている。広島県にもたくさん来ており、ピースツーリズムを知っていただくチャンスである。チャンスをうまく使って、皆さんに、ピースツーリズムそして広島の思いを知っていただきたいと思う。

(津村委員) 委員の皆さんから色々な貴重なご意見をいただいた。平和行政を所管している身として、ピースツーリズムに関わる意見はもちろん、他の意見も心に留めながら仕事をしていきたい。

(阪谷委員) 10月にお会いする時には、進んだなと感じていただけるよう、がんばりたい。

(原田座長) 今日色々ご意見をいただき、今後の課題は大きいことはご理解いただいたと思う。事務局には負担をかけるが、事業の具体化に向けて進めていきたいと思うので、引き続きご協力をいただきたい。その他のご意見があれば事務局にお伝えいただき、次の懇談会においてとりまとめていきたい。